

現代社会に潜むデジタルの「影」を追う

市民のための「サイバーリテラシー」

矢野 直明 サイバーリテラシー研究所 代表

No.137 「サイバー燈台」オープン



サイバー燈台のロゴ

「IT社会を照らす灯を掲げてウェブ刷新」

サイバーリテラシー研究所ウェブが2017年5月、大きく生まれ変わりました。昨年、はつきりと明るみに出た社会およびメディアの激変。その中であふれる情報に私たちはどう対応すればいいのか、誰が権力監視などのジャーナリズム機能を担い得るのか。未曾有の端境期に当ウェブもささやかな一石を投じたいと考えてのことです。新ウェブの目玉に本コラムをめぐる意見交換を据えました。

「サイバー燈台」に込めた思い

タイトルを「サイバー燈台」としました。闇夜に沖を行く船舶に道しるべを与える岬の燈台をイメージしましたが、そこまで大げさでなくても、暗い部屋にかすかに揺れるロウソクの燈台の役割ぐらいは果たしたいものです。願いはIT社会の闇を照らす一筋の光。社会に向けたレーザー光線のような鋭い光、あるいは日常生活の中明るく温かい灯火です。サイバーリテラシー研究所ウェブは15年前の2002年に開設しましたが、そのキャッチは「IT社会を生きる杖」で

した。現実世界とサイバー空間の交流で、かつて経験したことのない社会を生きたための基本素養が「サイバーリテラシー」であり、ではどう生きればいいのかの指針が「情報倫理」です。

ウェブはサイバーリテラシー普及を願い、基本的考えをまとめたり、折々に執筆した原稿をアーカイブとして収容したりしてきました。14年から15年にかけては、より分かりやすい解説として、MOOC（インターネット上で誰もが受講できる大規模な講義）の試み「5分間の公開授業」も作成しました。

しかし、サイバーリテラシーをより多くのの人に知ってもらうためには、もう少しビジュアルを備え、読者とのインタラクティブな仕掛けを持った、より親しみやすいウェブに模様替えしないと駄目だと一念発起、このほど若い仲間にも助けられて大刷新に踏み込んだ次第です。

トランプ米大統領誕生をめぐる2回のコラムで明らかのように、いまは社会の

大転換期であり、同時にメディア激変の時期でもあります。私自身、長年新聞社に勤め、記者や編集者の仕事をしてきました。いまやマスメディアとパーソナルメディアが混然一体となった、というよりSNS主流の相互情報発信が主流の「総メディア社会」であり（『総メディア社会とジャーナリズム』参照）、ここでのメディアのあり方を模索したいとの思いもあります。

目玉は本コラムをめぐる意見交換

サイトの概略を示すと次のようになります。

当面のメニューは、
いまIT社会で 雑誌「広報」コラム
をめぐる意見交換
プロジェクト
サイバーリテラシー教本
アーカイブ
です。

が新しくオープンした「サイバーリテラシー店」の言わばショーウィンドウです。気楽にのぞいて、おしゃべりもしていただければと思います。サイバーリテラシーに興味を持っていただいた方は、「サイバーリテラシー教本」を参照してください。アーカイブはこれまで折りにふれて発表した論考などを集めたもの

やの・なおあき / 1966 年朝日新聞社入社。79 年出版局『アサヒグラフ』編集部員。88 年『ASAHI パソコン』初代編集長。『月刊 Asahi』編集長の後、95 年から出版局デジタル出版部長兼『DOORS』編集長。97 年総合研究センター主任研究員。2002 年朝日新聞社退社。同時にサイバーリテラシー研究所を開設。03 年 4 月から 06 年 3 月まで明治大学法学部客員教授。06 年 4 月から情報セキュリティ大学院大学客員教授。07 年 4 月から 12 年 3 月までサイバー大学 IT 総合学部教授。著書に『インターネット術語集』（岩波新書）『サイバーリテラシー概論』（知泉書館）『総メディア社会とジャーナリズム 新聞・出版・放送・通信・インターネット』（知泉書館、2009 年度大川出版賞受賞）など。最新刊『IT 社会事件簿』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）では、IT の進化により引き起こされたさまざまな事件事故の真相に迫っている。

【新ウェブ「サイバー燈台」】 このほどサイトをリニューアルし、より親しみやすいページにしました。本連載「現代社会に潜むデジタルの『影』を追う」をめぐる意見交換が目玉です。読者のみなさんもぜひご参加ください。 右画面

【5 分間のサイバーリテラシー公開授業】 2014 年 1 月から、オンライン無料講座の仕組みを利用し、「サイバーリテラシー」に関する一コマ 5 分間の授業を「サイバー燈台」で公開中。



サイバー燈台

<http://cyber-literacy.com/>

で、これまでの『広報』連載はアーカイブのトップ「サイバー閑話」に掲載しました（サイトリニューアルにあたり、しばらく埋もれていた「明治大学シンポ」も、復活しました）。

目玉の「いま IT 社会で」は、本コラムのテキストとカラーイラスト、イラストをめぐる担当者との短いやりとりの後に、「楽屋話」として ML を通してサイバーリテラシー研究所の仲間で行ったやりとりが掲載されています。とりあえず「トランプ大統領」、「ピコ太郎」、「PC 98 の思い出」の 3 本をアップしました。このコーナーは連載進行にあわせて順次追加していきますが、古いバックナンバーについても逐次掲載していく予定です。

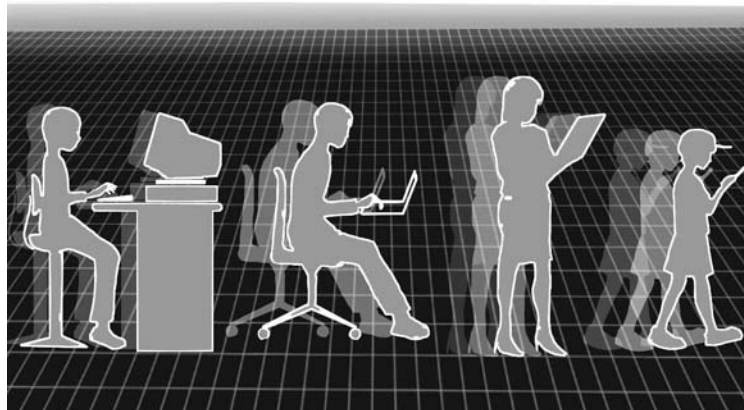
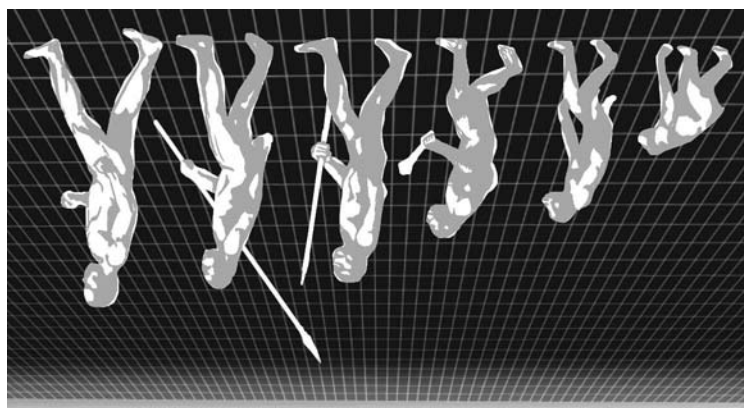
プロジェクトのコーナーはサイバー燈台の「専門店街」です。当初のメニューは ML 仲間による「サイバー絵本」、「ネットいじめ」、「映画史に見るサイバーリテラシー」（近日オープン）などですが、いずれは店数も増やしていく予定です。さらには広く有志からの「出店」を求めたいと考えています。もっとも、専門店街に静かに流れる通奏低音はサイバーリテラシーです。

本コラムは今回が 137 回、すでに 10 年以上続いていることになりました。長年にわたり連載の場を提供してくださった編集部には深く感謝していますが、それも読者あつてのことですね。これまでは直接お声を聞くことはできませんでしたが、これからはコラムにふれ、あるいは

サイバーリテラシー全般についてどんな投稿いただければうれしいです。

情報環境を豊かに美しく

みんなが情報発信できるようになった時代の情報環境（インターネット）を美しいものにする、というのも「狭義のサイバーリテラシー」です。関連するサイトにもリンクを張るなどしてネットワークを広げていきたいと思いますが、サイトとしてはオンラインマガジンとしての編集権を確保し、少なくとも第 1 次リンクの内容には責任を持てるようにしたいと思っています



何十万年と数十年

イラスト kkkkkkkkkkeeeiii

います。これが本ウェブの基本姿勢です。また、インターネットだからといって、何もかもスピーディーにしないといけないという考えはとっていません。ラインのやりとりが典型的ですが、メールが来たらすぐ返事を書かないといけないと、現に会っている人とのコミュニケーションを犠牲にするような生き方は本末転倒ですね。

IT 社会を豊かで楽しいものにしていくための個別具体的な生活指針「情報倫理」もこのウェブを通して、みんなで築き上げられればと願っています。